

---

# ピカチュウの大冒険

Shadow

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ピカチュウの大冒険

### 【Nコード】

N5928Y

### 【作者名】

Shadow

### 【あらすじ】

ピカチュウが幼なじみのフシギダネ ヒトカゲ ゼニガメと大冒険をする八チャメチャストーリー

## ポケブレのあのポケモンからご挨拶

ここではポケモンブレイブアドベンチャーの事を「ポケブレ」と略します。

ただ決して面倒という訳ではないです

ピカチュウ

「・・・えっ？僕 主人公？」

作者

「違う…違うピカチュウ  
つまり別個体」

ピカチュウ

「・・・あのさ

フルミネーネといい僕といい何故ピカチュウにこだわる？」

作者

「好きだし 君 主人公的存在じゃん？」

ピカチュウ

「まあそうだけど…

まあちゃんとポケブレも書けよ？」

作者

「わかってますよ」

ピカチュウ

「ちなみに僕はポケブレのピカチュウです

この小説とは別個体です」

作者

「お前 口調WW」

ピカチュウ

「……………」

作者

「どした？」

ピカチュウ

「ビーカーチュウウウウウウウウウウ……………」

バチバチバチバチバチ

作者

「……………」

ピカチュウ

「あれ？ダメージを受けてない」

作者

「作者だからね」

ピカチュウ

「それでいいのか？」

作者

「うん それでは

新小説ピカチュウの大冒険スタート！

## 第1話 一致団結！（前書き）

作者

「どうもShadowです

今回の小説はまたピカチュウが主人公となりますが、性格は結構違います

皆 挨拶して」

ピカチュウ

「えっと…こんにちは

俺の名前はピカチュウ

特徴はえっと…

なんだろうね？

まあ でも仲間を思う気持ちなら誰にも負けない気がするなあ…って何言ってるんだろうね」

フシギダネ

「僕の名前はフシギダネ

少し足が遅いけど反射神経なら誰にも負けないと思うんだ  
自分の言うのもあれなんだけどね」

ヒトカゲ

「俺の名前はヒトカゲ

えっ？俺の特性？

そっだなあ…木登りとかは得意だね  
あと皆によく器用と言われるよ  
自分では思っていないけどね」

ゼニガメ

「俺の名前ゼニガメだ！  
特徴だと？そうだなあ…  
この四人の中では  
力とあると思うぜ！  
まあ頭脳はダメだったりするかな  
あんまり気にしてないが」

作者

「皆さん挨拶ありがとう  
それでは記念すべき  
第1話スタート！」

## 第1話 一致団結！

俺の名前はピカチュウ

ポケモンだけの世界…

通称ポケモンワールドのフレンドタウンという場所に住んでいる

母

「ピカチュウ！

起きなさい！」

父

「朝ご飯出来てるぞ！」

ピカチュウ

「マジ？やべ、起きないとな」

俺は父と母と住んでいる

ちなみにどちらも種族はピカチュウである

ピカチュウ

「いただきます」

ガツガツムシヤムシヤ

ガツガツムシヤムシヤ

ガツガツムシヤムシヤ

ガツガツムシヤムシヤ

ガツガツムシヤムシヤ

ピカチュウ

「ぷはぁー美味かった」

母

「そういつてもらえれば  
つくりがいがあるわ」

ピカチュウ

「うん、あ、そうだ

幼なじみのフシギダネ達と遊んで来ていい？」

母

「いいわよ」

父

「お前達は本当に仲がいいな」

ピカチュウ

「じゃあ 行ってきまーす」

母

「行ってらっしゃい」

フシギダネ達というのは  
俺の幼なじみの友達の事だ

フシギダネ ヒトカゲ ゼニガメ この三人とは仲が凄いいよくて毎  
日遊んでいた

ゼニガメ

「ピカチュウ！」

遅い！」

フシギダネ

「僕 待ちくたびれたよ」

ヒトカゲ

「まあいいじゃん  
さ 遊ぼうぜ」

皆 既に集まっていたようだ

ピカチュウ

「ゴメン おくれた  
じゃあ何するんだ？」

ゼニガメ

「鬼ごっこでもやるか？」

ピカチュウ

「ああ いいよ」

そして鬼ごっこをやる事になった

鬼はヒトカゲ

ヒトカゲ

「じゃあ数えるよ」

ゼニガメ

「よし！逃げるぞ！」

ヒトカゲが数えると  
同時に俺達は逃げた

そして…

ヒトカゲ

「…0！よし捜すぞ！」

ヒトカゲが数え終わったようだ

というか、この場所は狭い為、捜すも行ってもすぐ見つかるんだが

ヒトカゲ

「どこにいるかな？」

ヒトカゲが色々な場所を搜索中

ヒトカゲが動くと同時に俺達も見つからないように足音をたてずに  
移動

ヒトカゲ

「見つけた！」

フシギダネ

「わわっ」

フシギダネが見つかったようだ

フシギダネ

「逃げるー」

だがフシギダネは四人の中では1番足が遅い為…

ヒトカゲ

「タッチ！」

フシギダネ

「あーやっぱり捕まっちゃったか…」

そして鬼はフシギダネ

フシギダネ

「……………」

フシギダネが目を閉じた

実はこのフシギダネ…音に敏感な為 少しの音でも見逃さないのだ

ザッ

フシギダネ

「そこだ！」

つるのムチ！」

ゼニガメ

「のわっ！」

フシギダネがつるのムチでゼニガメにタッチした

次の鬼はゼニガメとなった

ゼニガメ

「鬼になっちまったか…  
なら！高速スピン！」

ゼニガメが高速スピンを繰り返した

この四人の中で1番速いのはピカチュウだが  
高速スピンを使った時のゼニガメの速さはそれを越えるほどだ

ゼニガメ

「オラオラオラオラ！」

ゼニガメが甲羅の中に頭を入れたまま、この場所を暴れ初めた

ドガッ

ゼニガメ

「当たった！」

ゼニガメは誰かに当たった感触があった為  
高速スピンを解いた

????

「痛えな オラ！」

ゼニガメ

「え？」

そのポケモンはオコリザルであった  
部下のマンキーも三人いた

マンキー

「誰だ お前、でも、いくら餓鬼でも親分を傷つけた奴は容赦しねえぜ？」

ゼニガメ

「う…うわあ…」

ゼニガメが危ない

そう思った俺達はいつらの目のつかないところで一旦集合してゼニガメ救出作戦を建てる事にした

オコリザル

「行くぞ…気合いパンチ！」

ゼニガメ

「か…からにこもる！」

ゼニガメはとっさからにこもるを繰り出して身を守った

ボカッ

ドコッ

ゼニガメ

「……………ッ……………」

殻に籠ったとはいえ

気合いパンチを何発も受けては、ダメージは受ける

ゼニガメ

(皆 助けてくれ…)

???

「ゼニガメ!

助けに来たぞ!」

突然どこかで聞いたような声がした  
ゼニガメが声をした方向に向くと

ゼニガメ

「ピ…ピカチュウ!」

居たのはピカチュウだった

ピカチュウ

「お前 情けないな

俺達四人の中では1番意地張ってたくせに」

ゼニガメ

「う…うるせえ!

あれ…他の二人は?」

ピカチュウ

「今は話しづらいな

その不良連中を倒さない限りは」

オコリザル

「さっきからブツブツ話しやがって!

貴様は誰だ!」

ピカチュウ

「ピカチュウ…」

そのポケモンの友達さ…」

オコリザル

「糞が！おい野郎共！

あの餓鬼をボコボコにすんぞ！」

.....

返事がない

オコリザル

「おい！野郎…」

そしてオコリザルがマンキー達の方を向くと…

ヒトカゲ

「残念！お前の部下達は俺達が倒した！」

フシギダネ

「はあはあ…」

僕…疲れたよ…」

ゼニガメ

「ヒトカゲ！それにフシギダネも！」

居たのはヒトカゲとフシギダネだった

そして辺りにはマンキー達が倒れている

ピカチュウ

「さあ、どうする？」

お前の部下はもういないぞ？」

オコリザル

「糞が！ 餓鬼共が調子に乗りやがって！ 覚えてろ！」

オコリザルは部下を置いてどこかへ行ってしまった

ピカチュウ

「あいつ部下いないと

何もできないんだな」

ゼニガメ

「それよりピカチュウ！

なんか作戦でも建てたのか？」

ピカチュウ

「慌てるなって…

簡単な作戦さ

まず俺が最初に現れて

あいつの気を引く

その間にヒトカゲとフシギダネが裏に回り部下達を倒したのさ」

ゼニガメ

「へー

お前達凄いな

あっそうだ」

ピカチュウ

「どうしたんだ？」

ゼニガメ

「皆…助けに来てくれて  
ありがとうな！」

ヒトカゲ

「俺はピカチュウの指示でやったまでだよ」

フシギダネ

「僕も攻撃するとき緊張したけど、ゼニガメを助けられたのはピカ  
チュウのおかげだよ」

ピカチュウ

「皆 やめるよ 照れるって  
まあとりあえずゼニガメ  
礼には及ばないって事だな」

ゼニガメ

「本当にありがとうな！」

ピカチュウ

「ああ だって 俺達  
友達だもんな！」

そしてその日の夜

母

「ピカチュウ いつまで起きてるの！寝なさい！」

ピカチュウ

「わかってるよ（やっぱり友達っていいな…）」

そして朝が来た

俺は朝ご飯を食べていた

ガツガツムシヤムシヤ

ガツガツムシヤムシヤ

ガツガツムシヤムシヤ

ガツガツムシヤムシヤ

ガツガツムシヤムシヤ

ピカチュウ

「美味かった〜」

母

「今日は早起きね」

ピカチュウ

「皆が待ってるからね」

俺は大切な仲間がいる

家族がいる

友達がいる

そして…幸せな生活を送っている

## 第1話 一致団結！（後書き）

ピカチユウ

「な…なんか…最終回みたいだな…感動したし」

作者

「いやさ 始めは絆をテーマにしようと思った訳よ  
多分次の話で冒険にでるかもね」

ピカチユウ

「ふーん」

ヒトカゲ

「ま ゼニガメが無事でよかったじゃん」

フシギダネ

「それもそうだね」

ゼニガメ

「うっ…皆…ありがとう…」

作者

「おやゼニガメ君  
男泣きかい？」

ゼニガメ

「うるせえ！

ハイドロポンプぶっけんぞ！」

作者

「ゴメンゴメン

それでは次話もお楽しみに」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5928y/>

---

ピカチュウの大冒険

2011年11月18日04時51分発行